

# ◆一人一日当たり35gの減量を目指して！「牛久市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 概要」

## 1 総論

### 1. 計画策定の趣旨

- 本計画はごみの適正処理、※3Rの施策の実施等による更なるごみの減量化、資源化を長期的な視点から計画するもの。
  - 本計画の策定にあたって、市民、事業者、行政が各主体となり協働を図りながらごみの減量化、資源化を推進し、持続可能な循環型社会・低炭素社会・地域循環共生圏づくりを目指し、SDGsといった国際的な動向についても注視しながら取組みを推進する。
- ※3Rとは①リデュース、②リユース、③リサイクルの総称のこと。

### 2. 計画の位置づけ

- 廃棄物処理法第6条第1項の規定に基づき策定する計画。
- 本計画を本市における廃棄物行政の上位計画に位置付け、一般廃棄物処理の基本的な考えを具体化するために施策等の方針を定めるもの。
- 前計画が令和3年3月末に計画期間を終えることから、令和2年3月に牛久市廃棄物減量等推進審議会を発足させ、14名の審議委員により、新たな牛久市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画を策定した。

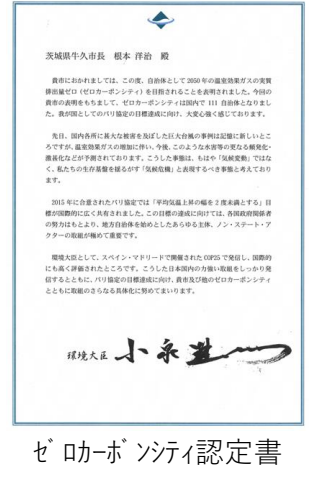
### 3. 計画期間

- 令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間を計画期間とする。
- 令和7（2025）年度の間目標年度では計画の進捗状況評価を行う。

H23～R2 (2011～2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	
← 前計画期間 →		← 本計画期間（10年間） →									
	初年度				中間目標年度					計画目標年度	

### 4. 一般廃棄物（ごみ）を取り巻く社会情勢

- (1) ゼロカーボンシティ
- 本市では、令和2年7月16日に2050年の温室効果ガスの実質排出量ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指すことを表明。牛久市総合計画及び環境基本計画の方向性を踏まえて、ごみ処理におけるゼロカーボンシティに関する方針を示す。
- (2) 海洋プラスチック問題
- 毎年約800万トンにも及ぶプラスチックが海洋に流出し、地球規模での環境汚染が懸念される。
- (3) 持続可能な開発目標（SDGs）
- 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で定めた気候変動などの国際的な問題に対する17の目標と169のターゲット。



## 2 ごみ処理基本計画

### 1. 基本理念及び基本方針

- 市民・事業者・行政が一体となって、地域資源を活かし、自立・分散型の社会を形成し、地域の特性に応じて補完し、支え合う循環型社会の実現に向けた取組みを進める。

～牛久らしい地域循環共生圏づくりを目指します～

「ごみの出ないまちをつくろう」



基本方針1 市民、事業者、行政の役割分担と協働によるごみ減量化・資源化の推進



基本方針2 効率的な資源循環システムの構築

### 2. 数値目標の設定（令和12年度目標）

減量化の目標

#### (1) 家庭系ごみの減量化

- 1人1日当たり家庭系ごみ：673.4g/人日以下  
(平成30年度比で5%分の**重さ約35g**  
(クロワッサンやピーマン約1個分)の減量)
- 食品ロスをなくそう
- 資源物はしっかり分別



減量化の目標

#### (2) ごみ全体での減量化（家庭系+事業系ごみ）

- 1人1日当たりごみ全体：850.0g/人日以下  
(平成30年度比で7.5%分の**重さ約69g**  
(ツナ缶詰約1個分)の減量)



目標を達成することで年間2,140tのごみが削減できる。

### 3. 目標達成に向けた施策

市民、事業者、行政の役割分担と協働によるごみ減量化・資源化の推進

- (1) 市民、事業者、行政のパートナーシップの推進
- (2) 啓発活動・環境教育の推進
- (3) ごみの3R+Renewable（持続可能な資源）に係る施策の総合的な展開
  - 再資源化の推進
  - 経済的手法についての調査・研究
  - 事業系ごみの排出管理・指導の徹底
  - 行政のリサイクル実践行動
- (4) 数値目標の共有化

効率的な資源循環システムの構築

- (1) 効率的な収集運搬体制の整備
  - ごみ排出ルールへの遵守・協力要請
  - ごみ収集運搬業務の効率化
  - 収集作業環境の向上
  - 適正処理困難物の対応
- (2) バイオマスタウン構想の推進
- (3) 中間処理施設の適正な維持管理
- (4) 最終処分計画の構築
- (5) 緊急時のごみ処理対策



### 4. 目標達成に向けた資源循環マネジメントシステムの構築

計画進行管理の確立

- CAPDo サイクル手法の利用

総合的な情報管理の確立

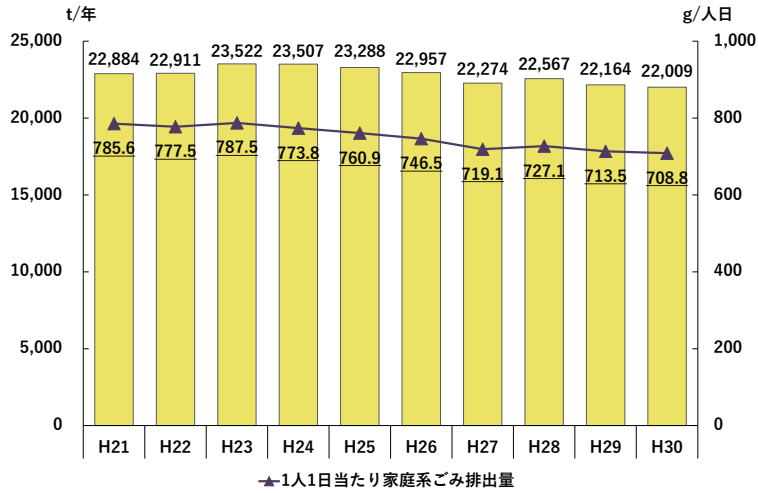
- コスト管理の検討
- 情報整備・公開の推進
- 条例・要綱等の見直し・整備



### 3 ごみ処理の現状

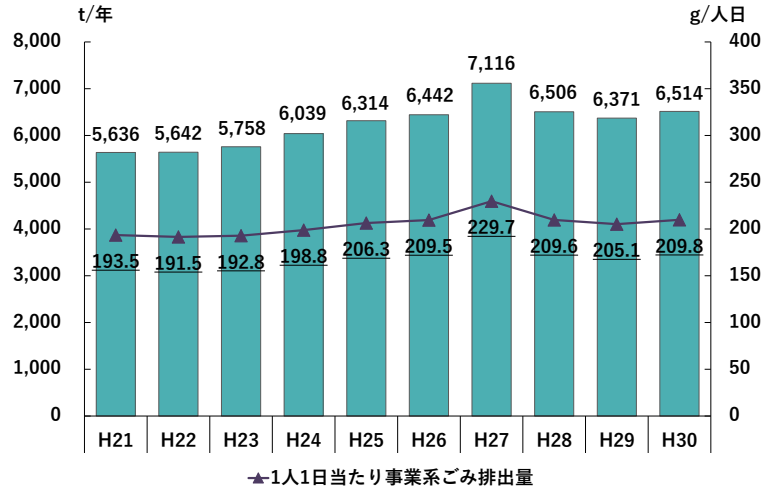
#### 1. 家庭系ごみの現状

- 家庭系ごみは、近年、微減傾向を示しており、約 22,000~23,000t/年の範囲で推移している。
- 可燃ごみが、家庭系ごみ全体の約 80%を占めており、生ごみと紙ごみが、可燃ごみ全体の約 70%（生ごみ約 40%、紙ごみ約 30%）を占めている。
- 1人1日当たりの家庭系ごみ排出量についても微減傾向。



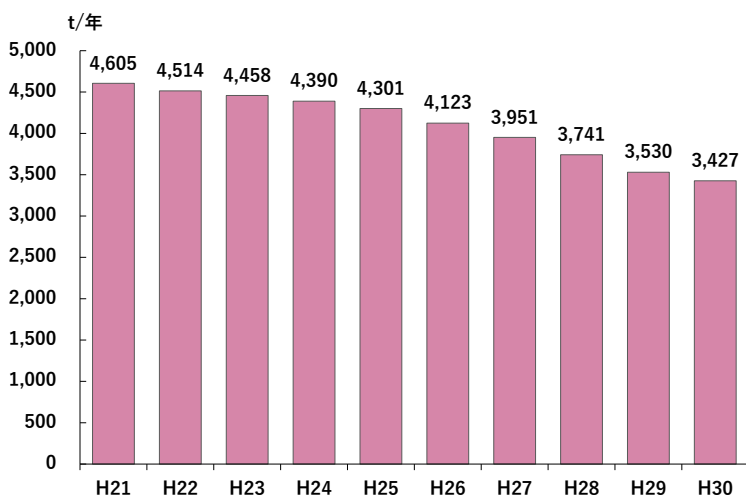
#### 2. 事業系ごみの現状

- 事業系ごみは、近年、増加傾向を示しており、約 5,000~7,000t/年の範囲で推移している。
- 可燃ごみが、事業系ごみ全体の約 95%以上を占め、圧倒的に多い。
- 1人1日当たりの事業系ごみ排出量も増加傾向。特に平成 27 年度は 229.7g/人日と多く、可燃ごみの直接搬入が例年よりも多くみられた。
- 事業系ごみの削減が課題。



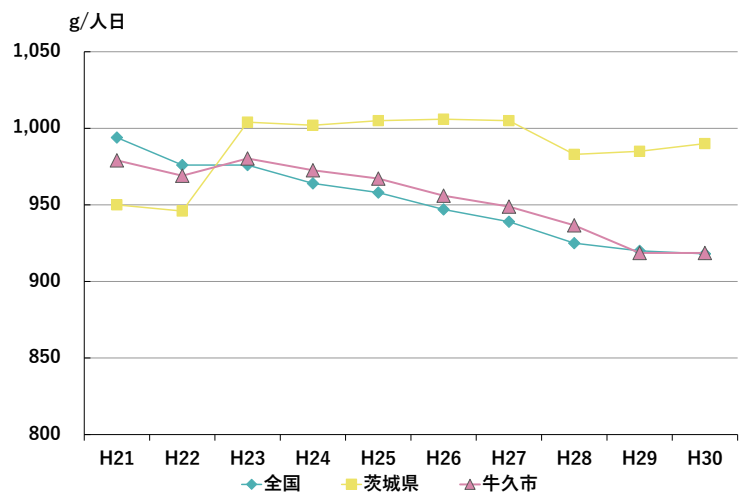
#### 3. 資源物量

- 家庭系ごみのうち資源物量は、約 3,400~4,600t/年の範囲で推移し減少傾向にある。近年、電子媒体の普及により、古紙類の資源化量も減少。
- 平成 25 年度より小型家電の分別回収、資源化処理を開始している。



#### 4. 1人1日当たりのごみ総排出量

- ごみ総排出量は、事業系ごみが増加しているものの、全体ごみ量の約 8割を占める家庭系ごみが減少しているため、減少傾向にある。
- 本市における 1人1日あたりごみ総排出量は、茨城県平均値より少なく、全国平均値と同等レベルにある (H30 年度比較)。

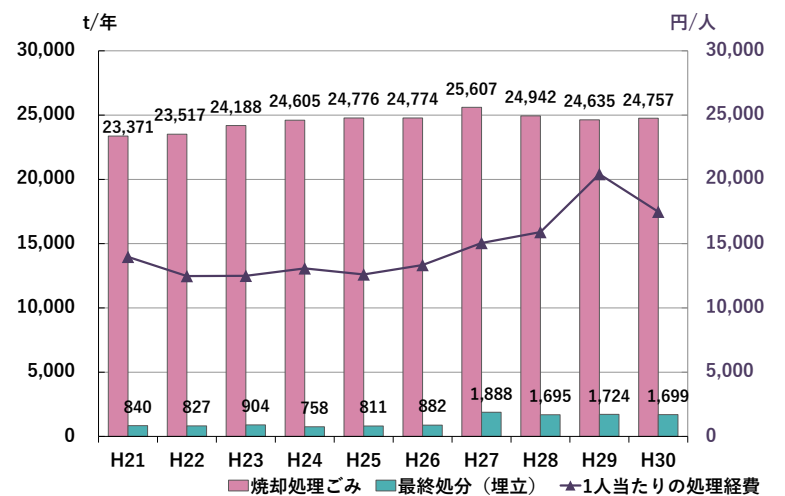


#### 5. 焼却処理・最終処分量及び処理経費

- 牛久クリーンセンターで焼却処理したごみの量は、約 23,000~25,000t/年の範囲で推移している。
- 最終処分 (埋立) の量は、約 800~1,700t/年の範囲で推移している。
- 平成 27 年度から令和元年度まで約 21 億円を投じ牛久クリーンセンターの基幹的設備改良事業を実施したため、事業がピークを迎えた平成 29 年度にごみ処理経費が増加した。



牛久クリーンセンター (焼却施設)



### 4 前計画の総括と課題

#### 1. 前計画の総括

- 家庭系ごみは着実に減量化が進んでいる。
- 事業系ごみは増加傾向にあり改善が必要である。
- 本市は茨城県の平均に比し、1人1日当たりのごみ排出量は少ないが、更なる削減が求められている。
- 最終処分量は平成 27 年度より費用対効果を鑑み、飛灰発生量の約半分を最終処分としたため、達成率は 49.4%と低迷した。

項目	実績値		ごみ処理基本計画		評価 (平成 30 年度目標値に対する達成率)
	平成 27 年度 (中間目標年度)	平成 30 年度	平成 30 年度 目標値	令和 2 年度 目標値	
家庭系ごみ (資源物含む)	719.1 g/人日	708.8 g/人日	707 g/人日	701 g/人日	達成率: 99.7%
事業系ごみ	229.7 g/人日	209.8 g/人日	159 g/人日	155 g/人日	達成率: 75.8%
計	948.8 g/人日	918.6 g/人日	866 g/人日	856 g/人日	達成率: 94.3%
再生利用率	21.4%	19.6%	27%以上	27%以上	達成率: 72.5%
最終処分量	1,888t	1,699t	840t	848t	達成率: 49.4%

#### 2. 課題の抽出

- ごみの減量化
  - 可燃ごみをターゲットとした家庭系ごみの減量化
  - 事業系ごみの組成を把握、減量化が可能なごみに対する重点的な対策
- 再資源化の促進
  - 紙類などの資源物に対する分別徹底の推進
- 生ごみ堆肥化事業について
  - 平成 30 年度まで実施していた事業の代替案として、水切りの励行、その他生ごみの削減及び堆肥化の方法の提示による発生抑制
- 安定したごみ処理事業の継続
  - 資源化施設における適正なストックマネジメントの実施
  - 火災の原因となるリチウムイオン電池やエアゾール缶への対策
- 最終処分場について
  - ごみの削減、分別の徹底による処分量の低減
  - 複数の受入れ先の確保
- ごみ処理経費の負担と公平性の確保
  - 排出量に応じて手数料を徴収する有料化の施策について総合的観点から審議
- 指定ごみ袋の形状等
  - ごみ袋の形状等についての状況把握